

テクニカルダイアリー

成東経済センター 営農指導員 古谷 公一

山武経済センター 営農指導員 福岡 龍也

害虫は、昨年度に引き続きシロイチモジヨトウが大発生したほか、ネダニ類による被害も散見されました。ネダニの特徴としては、ネギの根や茎盤部を食害します(写真④⑤)。茎盤の



写真③ 軟腐病の被害株(地際部から倒伏)

病害では萎凋病・白絹病・軟腐病の発生が問題となりました。特に10月に入ってから気温が高い日が続いたため、軟腐病により地際部から倒伏する被害が散見されました(写真③)。被害株は圃場に残さないよう、早めに圃場外に持ち出しましょ。

令和6年産の夏から秋の振り返り

病害では萎凋病・白絹病・軟腐病の発生が問題となりました。特に10月に入ってから気温が高い日が続いたため、軟腐病により地際部から倒伏する被害が散見されました(写真③)。

植え付け準備

種芋が届いたら、ムレや腐敗を防ぐため、できるだけ速やかに開封しましょう。種芋は必ず風通しの良い所で保管し、傷みや変色、腐敗等を発見したら、すぐに取り除いてください。1片の大きさは40〜60gで2〜3個の芽が付くように切断し、切り分けた芋は風通しの良い日陰で乾かしましょう。また、病害予防のために種芋の粉衣処理や浸漬処理をし、消毒を行います(表①参照)。

圃場の準備と植え付け

適切な土壌pH(5.5〜6.0)を維持し、pHが高い圃場(6.5以上)での作付けは極力避けましょう。また、pHが基準より高めの場合、作付けを行う場合は、そうか病の発生を助長する恐れがあるため、石灰質肥料の施用は控えましょう。施肥を行う際は、表②を参考にしてください。

植え付け前には、ネキリムシ



写真⑤ ネダニ被害株の根元



写真④ ネダニ(体長0.7mm前後)

真上には生長点があるので、加害されると葉色はさえず、萎凋したり、生育不良となり、被害が著しい場合には欠株となります。高温多湿条件を好み、生育適温に近い初夏と初秋に被害が多く発生します。重粘土土壌より、砂地あるいは砂壤土に多く発生する傾向です。

病害対策

●そうか病(写真①) 放線菌による被害で、中心がくぼんだカサブタ状の病斑が発生します。高温、乾燥条件で発生しやすく、特にpHが6.5以上のアルカリ性土壌で多発します。石灰質肥料を使用する場合には、施肥前に土壌診断を行い、pHが5.5〜6.0の弱酸性になるよう、施肥量に注意しましょう。そうか

●そうか病(写真①)

類の防除にダイアジノン粒剤5を10坪当たり4〜6g、ネコブセンチュウの防除には、ネマキック粒剤やネマトリンエース粒剤を10坪当たり20g施用してください。

植え付けは畝幅90cm、株間25〜30cm、深さ10cm程度としましよう。なお、出芽が遅れてしまうので、覆土のかけすぎには注意してください。雑草の発生が多い圃場には、植え付け後にゴーサン乳剤等の除草剤を散布します。抑えきれなかった雑草にはプリグロックスを散布しましょう。

病の発生が多い圃場には、植え付け時にネビジン粉剤(10坪当たり30g)の作条土壌混和を行います。

●粉状そうか病(写真②)

糸状菌による被害で、見た目はそうか病と類似しています。乾燥後の多雨や排水不良、過湿条件で発生しやすく、そうか病とは発生条件が異なる病気です。進行すると、皮が破れて被害部の周囲へひだ状に残ります。そうか病と併せて防除を行う場合には、植え付け時にネビジン粉剤(10坪当たり60g)の全面土壌混和を行います(表①)(粉状そうか病は作条混和での登録はないので注意)。

●疫病

糸状菌による病害で、病原菌が葉の裏側から侵入することにより感染します。湿度が高い長雨の時期や、排水の悪い場所などに発生しやすいのが特徴です。発生するとあつという間に広がるほど感染力が強いので、レーバスフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤などの薬剤を散布し、早期に防除しましょう。

葉枯病(黄色斑紋病斑)・さび病

葉枯病は15〜25℃で発病しやすく、春から秋まで発生が長く続きます。葉枯病はまず先枯れ病斑(写真⑥)または斑点病斑(写真⑦)が発生し、その後さらに冷え込むと黄色斑紋病斑(写真⑧)も発生し、出荷物の品質に影響する恐れがあります。葉枯病のまん延を防ぐために、葉の防除を心掛けましょう。耕種的・物理的防除として、多肥栽培を避け適切な肥培管理を行うこと、土壌pHを下げないよう管理することが大切です。

さび病(写真⑨)

さび病(写真⑨)は気温が17〜23℃で多湿の場合に発生しやすい病害ですが、発病する3週間前には感染しているため、気温が下がってきたら早めに防除しておくことが重要です。



写真⑥ 先枯れ病斑



写真⑨ さび病



写真⑧ 黄色斑紋病斑



写真⑦ 斑点病斑

※写真①〜⑨は「ルーラル電子図書館」より引用

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関する悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室 (本所 営農部内)
☎0120-972-860

表① バレイショの種芋消毒農薬

| 薬剤名 | 適用病害 | 使用量・希釈倍数 | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 |
|-----------|--------------|-----------|------|------|------------|
| バリダシン粉剤DL | 黒あざ病 | 種芋重量の0.3% | 植付前 | 1回 | 種芋粉衣※1 |
| アタッキン水和剤 | 黒あざ病 | 40倍 | 植付前 | 1回 | 5〜10秒間種芋浸漬 |
| | 黒あし病 そうか病 | | | | |

※1…種芋切断後、切り口が乾いてから粉衣する。

表② バレイショの施肥例

| 肥料名 | 成分 | 施肥量(10a当たり) |
|--------------|------------|-------------|
| さんぶジアン有機特806 | 8-10-6 | 200kg |
| 畑のカルシウム※2 | カルシウム28.5% | 100kg |
| 苦土重焼燐 | 0-35-0 | 40kg |

※2…畑のカルシウムは、pHを上げない石灰質肥料。



写真① そうか病

写真② 粉状そうか病